

## 時の視点

副理事長 近藤 勝

1

今年も残すところ後一ヶ月というところまでやつて来た。夏の甲子園、そしてプロ野球日本シリーズ特に第五戦は久しぶりにテレビの前で釘付けになった。王子製紙のTOB、北朝鮮の核実験と今年の後半も意表を突く出来事が本当に多かった。核実験の震度はさほど大きくはなかったようだが、日本ハムの札幌ドームはテレビ画面を通して日本中を揺さぶった。本当にテレビ画面が揺れていた。時代を変える人のパワーは凄。怖い顔をする訳でもなく、厳しい事を言うわけでもなく、苦勞を物ともせず、信念だけで、しかも楽しみながらやつてしまふかのように見える。小泉前総理もそういう人だったような気がする。安倍新総理も、不可能とも思える国内外の諸問題解決にそのパワーを徐々にではあるが発揮し始めていると思う。

古紙業界を取り巻く環境はここ数年大きく変貌してきた。ISO14001やプライバシーマークの取得、品質管理や安全管理の徹底に努めながら新時代に対応できる業界になってきた。ここ3年間、国内古紙の回収率は66.1%、68.5%、71.1%と上昇し毎年80万トンから100万トンの増加、輸出も197万トン、2

84万トン、371万トンと回収増がそっくり輸出の増加に繋がっている。今年も更に回収増、輸出増の傾向に変わりはないが、ほんの少し様子が変わってきた。1月から8月までの累計で全国の古紙回収増は50万トン程あるが、輸出の増加は19万トンとやや伸びが減ってきた事だ。品種別で見ると段ボール、上物古紙は昨年を上回っているが、新聞、雑誌については前年割れとなっている。これは明らかに国内洋紙メーカーがここ数年内に稼動する新マシンやDIPの増設に伴う年間100万トンといわれる新規需要増に備えて購入を増やしている為だ。

一方、日本の輸出先の8割を占めている中国では大規模板紙メーカーのフル生産により古紙の輸入量が昨年は1,700万トンと日本の昨年の古紙消費量1,860万トンとほぼ同じ位の数字であった。今年もハイペースのまま8月までの累計では既に昨年同期より200万トン以上増加している。その中国が昨年から今年にかけて新聞紙メーカー数社によるマシン増設によって更に180万トンもの新規古紙需要増があるという。今まで新聞古紙の輸入先は主に米国であったが、その食指が日本にも向かっているらしい。そのせいだろうかは定かではないが、円安もあり日本の古紙輸出価格は急上昇、国内メーカーも対応策に必死だ。10月25日、定例の静岡県紙業協会家庭紙部会との懇談会が行われた。家庭紙メーカー16社、洋紙、板紙メーカー9社、計25社の出席という過去にない

大懇談会となった。製品価格修正も目標の50%位と説明があつたが古紙価格上昇、燃料を始めたとする諸資材の高騰、メーカーの淘汰、今まではあまり見えなかつた各社の危機感を感じ取る事ができた。「古紙の輸出がいつまで続くのか」という質問が真つ先に飛び出した。今の危機感には正にその一言に尽きるのかもしれない。

日経商品指数42種の中に従来の段ボール原紙、上質紙、コート紙に加え新たに段ボール古紙が追加された。かつては新聞に載つたと大騒ぎした古紙市況が今では日常茶飯事となり殆ど驚かなくなつた。一般の人達が古紙の話をするのも珍しくなくなつた。古紙がここまでは一般社会に認識されるようになったのも、赤字輸出の時代から組合による共販活動に取組んできた関東商組を始めとする各地域組合のリーダー達が発揮する絶大なパワーによるものである。中国の経済成長も一般的にはオリンピックまでとか万博までとか言われているがいくつかは転機が訪れるはずだ。古紙の想像を絶する国内外の需要増、内外価格差による混乱もいくつかは落ち着く日がやってくる。様々な情報の錯乱、情報バブルに踊らされることなく地道に、誠実に、そして前向きにこれからもリサイクル業界の一員として社会に貢献して行きたいと思つている。

## 第20回 古紙関係協議会

平成18年7月24日(月)PM3時

板橋製本会館会議室にて開催

出席名 東京都製紙原料協同組合 9名

東京都製本工業組合 13名

### 星野副理事長(東京工組)

製本組合では、10月に東京プリンスホテルパークタワーで全国大会を開催するので、ご協賛の程よろしくお願いしたい。バブル崩壊後、1、360社あまりあった組合員の数が減り続け、現在、800数十社になってしまった。

本日は両組合にとって有意義な話し合いもてる事を願っている。

### 皆川理事長

古紙業界にとって製本業界が最大の古紙発生源である。需給バランスがとれ、古紙価格が上がってくればよいが、今日の新聞にも、王子製紙が北越製紙を買収する記事が載っており、寡占化がますます進んでいる。さらに厳しい需給調整を懸念している。

### 藤田専務理事(東京工組)

製本業界にとって、古紙は貴重な位置づけになっており、その浮沈が経営の動きに影響する。そんな事で、古紙の動きに関して是非常に神経

を使っている。そのところを踏まえて、古紙の現況や今後の見通しなどを、専門的な立場から話をしていただきたい。

### 古紙業界の動向

#### ①古紙全般に関する現況

##### 近藤副理事長

昨年から今年にかけての状況について述べると、昨年の古紙回収率は71.1%、利用率は60.3%だったが、本年になって製紙連合会から、2010年までに利用率を62%まで引き上げると発表があり、国内大手メーカーのDIP増設計画等がぞくぞくと発表された。そして、洋紙メーカー再編の動きが活発になった。

一方、古紙の輸出については、昨年は371万吨とおととしに比べ3割増加した。今年の1～5月までの統計では、昨年同期に比べ11%となっている。

国内の古紙回収については、全体の85%が新聞、雑誌、段ボールの主要3品と呼ばれる古紙であり、年々減少する産業古紙とは対照的に、家庭から出る行政回収古紙や事業系といわれるオフィス古紙の増加、また、昨年施行された個人情報保護法のみならず、機密文書といった種類の古紙が大幅に伸びており、製紙メーカーの使用品目もそういったものに絞られてきている。

製紙業界においては、原油の高騰にともなう

原材料の高騰により、家庭紙についても大手の方針変更により、安値修正の動きが出てきている。

#### ②産業古紙について

##### 赤染直納部副部長

産業古紙は、印刷・製本工場から発生するものが主であるが、今現在、家庭紙メーカーの再生紙ものでは、日本での生産の約7割を占めている。ここ数年、最低価格という形で推移している。2～3年前、60m12ロール入りで198円だったのが、168円、128円となり、再生産不可能な価格になり、メーカーではかなりの赤字を抱えて生産している。そして大手は生産調整や値上げに踏み切った。6月から目標50%値上げしたいという話だったが、現実的には10%にとどまった。

オイルショックの時のように、トイレトペーパーがなくなるという噂も出て、また、値上げを控えて、古紙ものの家庭紙メーカーは5・6月忙しかったが、今はその反動が出ている。

我々の見方では、産業古紙は依然発生が少なく、昨年に比べ7～8割程度。家庭紙メーカーには、製品価格を値上げしたら、材料価格も値上げして欲しいと申し入れている。

組合では、需給調整のため輸出をしているが、裾物三品は産業古紙と異質な動きをしている。中国に輸出している価格は国内価格より安い。

そして相変わらず、産業古紙において、アウ

トサイダーとの仕入れ競争が厳しい状況である。

## 製本業界の現況

### 島村雑誌部会長(東京工組)

雑誌の現況は減少傾向が相変わらずであり、部会に参加していても、雑誌の仕事をしていない業者が出てきている。発生する紙も変わってきている。特に再生紙を指定され、だんだん紙の質が落ちてきたと思うし、製本業者は紙を選べないので、我々から出た古紙がいつたいどのような扱いをされるのか心配である。

昨年の情報であるが、通販の部数が伸びており、通販関係の事業所から古紙が多く出ているのではないかと。東京周辺の通販を見ても、仕事は減っていないように思える。しかし、内容的には薄くなってきている。

一番気になるのはホットメルトの扱いである。

### 竹内手帳部会長(東京工組)

手帳業界の特徴としては、一括受注が多く、用紙購入から行っている。しかしながら業者が少なく、紙の消費量は微々たるものである。ここ2、3年、手帳の受注部数は下げ止まった印象である。同業者に聞くと、全般的に店頭で売れる手帳の部数を中心に、昨年より大幅に伸びている。

暮の手帳は、小口に金がついたり、見返しの本文もベタ貼りするが、再生紙では具合が悪い。

ーがあるのでは、そのような加工がある場合、テストをしてから仕事にかかる。

### 飛里紙製品製本部会長(東京工組)

日頃使っているカレンダー用の紙はR100となっている。その古紙を回収業者さんに出しているが、それも再びリサイクルされるのだろうか。

### 皆川理事長

R100という場合、その中の30%くらいは植林を認証されたチリ・ブラジル・南アフリカ等の植林国から採ったパルプを使用している。植林木を使うのもリサイクルとして認められている。カレンダーに使われるようなR100の再生紙は、問題なく再生できる。

## Q&A

(東京工組)……東京都製本工業組合)

(東京協組)……東京都製紙原料協同組合)

### 東京工組

家庭で新聞を出すのが、その中のチラシはアートや色上など様々な紙が混ざっている。それを一緒にして出して問題ないのだろうか。

### 東京協組

チラシは数年前までは、新聞と分別してくれという事になっていたが、現在、チラシの紙質は

再生紙がほとんどで、新聞紙とあまり変わらない品質であり、両方同様に使用できるということになり、メーカーからチラシを入れてよいという許可が出て、今は分別していない。

### 東京工組

現在、ライフサイクルアセスメントが話題になっているが、古紙混合率が高ければ高いほど、環境に優しいかという点、必ずしもそうでないと言われている。今後、製紙業界としては、古紙の混合比率が下がった紙が多く出回る可能性はあるのだろうか。

### 東京協組

今、(財)古紙再生促進センターで、雑紙という新たな品目を掲げている。製紙会社側では、それをあまり使いたくないようである。しかし60万トン弱、古紙使用率を上げねばならず、板紙の中にすきこむことになるだろう。

### 東京工組

ホットメルトがついているものや、色紙などがごみ扱いになっている。そして、包装紙のワンプの部分、こういったものは再生できないのか。また、集めている業者によって、扱いが統一されていないように思えるのだが。

### 東京協組

ホットメルトの付いた紙は現在ほとんど影響なく使われている。黒や赤以外の色紙については、雑紙に流れている。業者によって見解が違う点については、直接聞いたことがないのでわからない。

東京協組

ビニールワンプについては、捨てるものを少なくするという事で、製紙メーカーでリサイクルしているが、発生源には逆有償となっている。

東京工組

これが入っていたらゴミになるといのはどんなものであるか。

東京協組

表紙のPP貼りはゴミ扱いになる。

東京工組

表紙のPP貼りは一冊のうちほんの僅かで、断裁した時に少し入ってしまう。

東京協組

それくらいは業者の判断である。私から見れば、切ったものに少し混ざっているくらいなら大丈夫だと思う。

東京工組

8センチくらいのおおきさの本に、3センチくらいのモノグラムがついていた。それはゴミと言われた。

東京協組

3分の1は入っていると、ゴミといわれても仕方ない。

東京工組

これが入っているとゴミになるといいうような、判断材料となるリストが欲しい。

東京協組

古紙センターの方で、禁忌品リストが出ており、製本組合にも提出してある。

私は集荷業者だが、先程若干誤解を招く発言があったので付け加えたい。ラミネートワンプを前向きに使用しているのはほんの一部のメーカーで、ほとんどのメーカーは使いたくないのが現状。取引されている直納問屋が積極的に受け入れてくれないと、我々も納入できない。正直言くと、私のところでもラミネートワンプは東京都の処理場に搬入しているのが実情である。

直納メーカーとのたて線が1つあり、受けられるか微妙なところがあり、我々もつながりのある直納問屋に持ち込むが、いろいろな判断の中で、受けられるもの、受けられないものが出てくる。なかなかきちんとした答を出せないのが現状である。

大きな目安となる禁忌品リストが出ているので、それを参考に、付き合ひのある集荷業者と話し合つて欲しい。

東京協組

私どもは、製本業者から集荷を専門としている集荷業者と、それをとりまとめてメーカーに販売する直納業者の2つに分かれている。直納業者によつては、ラミネートのついているものを使えるメーカーと付き合ひのないところもあるので、そういう場合にはラミネートはゴミになる。それも圧倒的に量が問題となる。それなりの量がまとまって出れば、それをストックし、使えるメーカーに出せるが、設備を有するごく一部のメーカーに限られる。

東京工組

禁忌品種別について、一覧表はいただいているが、私どもの感覚では種別がよくわからない。何か参考になるもの、例えば、紙の切れ端を付けた見本等があればありがたい。

東京工組

資源ごみの日の、決まった時間に、さつさと積んでいってしまう業者がいる。アウトサイダーの業者だと思うが、非常に気になる。

東京協組

産業古紙のアウトサイダーはまた別だが、資源回収の抜き取りをするアウトサイダーには、我々も頭を悩ませている。

各区によつて「これは区の品物である」と明示し、無断で持つていったら罰するという区政をひいている所と、それをできない所がある。新聞の値段が上がリ、回収するのも楽なので、新聞だけ抜き取ることが起こっている。

東京工組

今まで、ここまで突つ込んだ話し合ひはなかったと思う。いずれにしても製本業界、とりわけ雑誌関係は非常に業績が悪く、業者は大変苦しい中で努力している。その辺を理解していただければありがたい。

これからも古紙業界の皆様と情報交換を密にしていきたいと思う。

## 全製工連

### 第50回全国大会開催される

全日本製本工業組合連合・

東京都製本工業組合の共催

平成18年10月6日(金)

東京プリンスホテルパークタワー

記念講演会 午後1時30分〜午後3時

本大会 午後3時20分〜午後5時20分

記念懇談会 午後6時〜午後8時30分

## 5

東京都製紙原料協同組合からは、皆川理事  
長と坂田副理事長が参加されました。

又、当日配布されたプログラムに協賛として  
当組合の広告を掲載いたしました。

## 青年部主催・王子製紙(株)

### 苫小牧工場研修について

青年部副幹事長 工藤 嗣人

平成18年9月22日(金)〜23日(土)

9月22日

東京都製紙原料協同組合・青年部主催の研  
修旅行に参加しました。

当初人数より増えて20名の参加者となりま  
した。

AM8時30分羽田空港・第1ターミナル北ウ  
イング集合、定刻通り皆さん集合し、AM9時  
45分発のJAL1013便にて新千歳空港に  
向けて出発しました。約1時間20分のフラ  
イトで北海道に到着。空港近くのレストランにて  
昼食をいただき王子製紙(株)苫小牧工場へ向  
かいました。バスにて、約30分で到着しまし  
た。

この苫小牧工場の生産品は主に新聞用紙で、  
世界最速のN-6マシンが稼働している工場です。  
この工場は歴史が長く、工場が建設された頃  
はまだ、町ができていなかったようです。工場以  
外にも王子製紙が経営しているホテルやスケ  
ート場などもあり、町の活性化には無くてはなら  
ない苫小牧工場に思えました。

到着すると会議室に通されビデオを拝見さ  
せていただき、早速工場見学大移りました。とて  
も広い工場敷地内なので観光バスにて移動しま  
した。最初に到着した見学地は古紙ヤードで  
す。

新聞古紙のストックヤードです。約20日間は  
古紙の入荷が無くても工場をストップしないで  
マシンを稼働させることができるそうです。

とても20日分のストックが無いように思えま  
したが・・・他の方も首を傾げておりました。  
次に新聞プレスの見学です。クランプにてコンベ

アーに載せ並べています。その並べたプレスを手  
作業で番線を切っています。コンベアーは非常に  
ゆつくり止まることなく進んでおりました。以  
前は自動化していたようですが、アクシデント  
が多く、現在では人の手にて番線をカット処理  
しているようです。

次は古紙解梱機を見学し、コンベアーで運ばれ  
てきた古紙は、1〜4のスクリーンにてバラバラ  
にされ、パルパーに運ばれていきます。

このパルパーは旧型で、現在は主に縦型が主流  
になつていようようです。

国内の古紙リサイクル率をグラフにしたもの  
があり、徐々に数字は伸びてはいますが、韓国  
の古紙リサイクル率80%には到底追いつきそ  
うもなさそうです。

古紙使用状況では、関東からが大半を占めて  
います。輸送には王子専用大型船を使つており、  
苫小牧から関東へは製品を運び、帰りに古紙を  
積んで苫小牧に戻るといふことです。

次にN-6マシンへ移動しました。日産能力は7  
20トンで時速100キロくらいのスピードで紙  
が作られているそうです。その隣には、N-5マシ  
ンもあり、日産能力は573トンです。すぐ隣で  
大型マシンを2台同時に見られたのは初めてで、  
すごい迫力でした。

苫小牧工場には合計9台ものマシンがあり、合  
計すると日産3,879トンもの能力があるそ  
うです。しかし昨今はマシンの老朽化もあり、停  
止しているマシンもあるそうです。

近年の新聞用紙には軽量化を計るため、重量新聞・普通新聞・軽量新聞・超軽量新聞などといった種類を製造しているようですが、カラー写真が多く掲載される新聞には超軽量新聞用紙は色載りが悪く、軽量新聞・普通新聞などに移行が多いようです。

バスに戻り、会議室にて質疑応答をさせていただきました。噂通りの素晴らしい工場でした。このような大型マシンが2台並んで設置している工場は初めての見学でしたので本当に良い見学会になったのでは・・・と思いました。

記念撮影後、苫小牧工場の水力発電の見学のためバスに一同乗り込みました。バスに30分ほど揺られ、苫小牧工場の水力発電を見学させていただきました。王子サーモン工場の見学予定でしたが、急遽、水力発電所の見学に変更されました。

現地には人は・・・いなく。説明はボタンを押すと誰でも聞くことができるアナウンスが流れました。とてもキレイな場所で、静かでした。水の落差は130メートルで、とても高い位置での見学でした。

30分ほど見学させていただき、水力発電所を後にしました。一同バスに乗り込み宿泊先の登別温泉出発しました。

9月23日

一日目は観光へAM9時00分に出発しました。

AM9時に宿泊先でした「石水亭」を後にし、目的地であります小樽へと向かいました。2回の休憩を入れると3時間30分のバスの旅になりました。

PM12時30分に小樽に到着、市内のレストランにて昼食をとり、市内見学へ出掛けました。市場へ向かうためタクシーに乗り込みましたが、ドライバーのアドバイスで良い市場へ連れて行ってもらいました。観光地の価格の半値近くで海鮮物を購入でき、満足な買い物となりました。

PM3時30分小樽を後にし、新千歳空港へ向かいました。バスにて70分ほどで到着、最後のお土産を購入し、締めくくりとして札幌ラーメンを食べてJAL1030便にて羽田に向かいました。

PM7時20分羽田到着。皆川理事長の解団式の挨拶をいただき解散しました。

## 青年部ゴルフコンペ

青年部幹事長 工藤充彦

平成18年9月24日

二井観光苫小牧ゴルフコース

北海道研修旅行のオプションとして、希望者8名によるゴルフコンペを行いました。清々しい北海道の秋空の下、爽やかな汗をかいてきまし

た。

優勝 坂内 大介 (有宏栄紙業)  
準優勝 近藤 行輝 美濃紙業(株)  
三位 南波 満男 (株)山田洋治商店  
ブービー賞 赤染 清彦 (株)共益商会

## 第45回 清風会

ゴルフコンペ開催

平成18年10月12日(木)第45回清風会が、茨城県常陽カントリー倶楽部にて開催されました。ゴルフ場に向かう途中、周辺道路が新しくなり建設中のマンションがえらく目立ちましたが、どうも筑波エクスプレスが開通した関係のようです。

当日は、秋晴れの絶好のゴルフ日和で、新井商店の新井勝夫さんの飛び入りもあり、総勢14名の参加で好スコアが続出しました。

皆川理事長、坂田会長が挨拶をされスタート。

コンペの結果は、工藤裕樹さんが好スコアを出しハンディにも恵まれて優勝されました。ニアピンも2個取り、景品はほとんど工藤さんが持つて帰った感があります。"やはり優勝しなければ"との声に参加者からもれていました。

米寿の坂田さん、それに続く工藤さん富澤さ

んの元気なプレーを拜見できて良かったです。

成績は次の通りです。

優勝 工藤 裕樹 (株)工藤商店

次回(ン)デイ21

準優勝 赤松 源裕 (株)赤松商店

次回(ン)デイ20

3位 増田 唯之 (株)増田商店

次回(ン)デイ7

4位 新井 勝夫 (株)新井商店

次回(ン)デイ18

5位 清水 弘允 グリーンロジテック(株)

7位 工藤 敏雄 (株)工藤商店

10位 坂田秀一郎 (株)坂田紙業

ブービー賞 富澤 一郎 (株)富澤

ニアピン賞 工藤 裕樹 工藤 裕樹

近藤 勝

ドラゴン賞 増田 唯之 近藤 勝

大波賞 高山昭二郎

小波賞 近藤 勝

ベスグロ 増田 唯之

\*次回は平成19年秋を予定しています。

\*次回幹事 近藤 勝、坂田 智

## 特更原料部会

親睦ゴルフコンペ

静岡県紙業協会家庭紙部会の懇談会の翌日に、特更部会による親睦ゴルフコンペが行われました。

平成18年10月26日(木)

沼津国際カントリークラブ

5組 18名

優勝 美濃紙業(株) 近藤 勝

準優勝 (株)庄司 佐藤 時吉

3位 三弘紙業(株) 宍戸 隆

## 集荷部より

集荷部長 坂田秀一郎

この度、10月度より直納部、家庭紙色上、宍戸委員長始め役員、担当者の再三に渡る価格修正のお願いで家庭紙メーカーも重い腰を上げてケント模造色上等、値上げ又は、過去の価格に値戻しがありました。

皆川理事長も常日頃、集荷業者の低価格帯での商売には注視、感心を寄せられている。最近、色上の他に雑誌、切付等も一部修正が見られる。集荷部としては、この一連の価格修正を有り難く受け止め、自社の為になる様にしていかなければなるまい。事実、価格上昇をマスキミに騒がれる事になると思われませんが、集荷サイドの現在、疲弊した自社の経営を幾らかでも

立て直す為に戴いたボーナスと思ひ修正したものを、そのまま安易に投げ出すのは一考を要すると思われます。これ迄、集荷サイドの皆様も

集直委員会等に出席して低価格を是正すべく訴えて参りました。それで価格が上昇を見たとは思いませんが、今回値戻しが見られ報いら

りました。この修正を大事にしていかなければならないと思ひます。何しろ上物古紙と云われる

模造、見当、色上が裾物三品と同価格では納得がいきません。当然のことと思ひます。

只、今回、修正が見られたと云う事は古紙発生減が原因ですから、そう簡単に利益が急に

良くなるとは考えないでいただきたい。各自、熟慮して御商売を万進して戴きますよう宜しくお願いいたします。

支部便り

支部便り

継続

山手支部 厚生部長 飯塚 宗天

毎年9月の第一土・日曜日に山手支部は、熱海、箱根湯元あたりに出かけて来る。

私自身、製紙原料の仕事に息詰まっていた時に、組合の仲間から研修旅行に誘われたのが最初で、あれから十年近く過ぎました。大先輩を

初で、あれから十年近く過ぎました。大先輩を

始め多くの組合員が宴会に時間に合わせて集まり、宴会後、海岸通りやネオン街に消えて行った。翌朝にはクモの子を散らす様に帰って行った記憶が残っている。

しかし熱海の有名ホテルがなくなり、街のネオンが淋しくなった頃から研修旅行の内容が様変わりしてきた。土曜日に東京駅に集合し、缶ビール片手に列車に乗り込み、旅館に早めにチェックインして、風呂で汗を流し、宴会までの時間を雑談や仕事の話でゆつくりと過ごす。宴会は懐石料理なので食事の時間も2時間位かかってしまいます。そして翌朝は、朝日を見ながら風呂に始まり、その後、朝食になりチェックアウトを十時から十一時頃に済ませるので、お昼頃は、まだ駅前でお土産を買い込んでいます。

支部の旅行が宴会中心からスローライフを満ち足させてくれる旅館へと変化、近年に於ても、フアーストフードからスローフード(ライフ)へ。そしてまた、レジヤホテルから落ち着ける和風旅館へ、という流れの中でお客様を満足させられる旅館だけが、継続させて頂いていると思う。ちなみに、優良旅館は、夏休みを過ぎても満室になることがあり、山手支部は今年、伊東温泉まで出かけてきました。製紙原料業もお客様とお互いに理解を深め満足して頂ければ、ご支援の元に継続することができ、また新しい道がひらけ継続していることよって得られる物が多々あると思います。研修旅行も同様に。

最後に私事になりますが、子供達も親離れし、

夫婦二人だけの時間が多くなってきました。そこで休日の朝はテラス付きのコーヒーショップに出かけ、たわいもない会話をしてみようかと思えます。いつまでも継続できるヒントを探しに。

## 組合員の広場

### 二十四年の追想

足立支部 サン商事(株) 西内 澄江

昔々の話です。銀座に勤めている店のウインドーの整理をし、明日の開店の準備を急ぎ終えた。私達6名の店員は、新橋駅前の中華そば屋で夜食を済ませ、握手を交わし明日(鋭気を養う、この雰囲気が大好きです。

山手線で上野を降り、常磐線に乗り換えて北千住で降りる、何時ものコースです。十時を過ぎている戦災に無傷の町は闇の中でした。翌朝出勤の途中そこかしこに立っている警官の姿に異様な空気を感じた。国鉄総裁の下山さんが夜十時過ぎ、この電車で轢死したのだと店を開けているおじさんの声が入り足が竦んだ。私の後の電車だろうか、戦慄が背を走った。

下山事件です。東京のはづれの下町がスクープの原点に変わり右往左往の賑やかに変貌した。事件の三日目、出勤すべく表に出たら籠を背に金目の物を集めるおじさんが、見えて今、

新聞屋さんが来て、下山事件に協力する人達と題して俺達新聞に出るのだって、姉ちゃんもと思つて誘いに来た。誘惑に負けて私は、三十人程が待つている中に入つていった。

カメラマンの指図で、くたびれた軍服の上等兵殿と私が前列で腰を落とし、後ろは台持つて来てやつとカメラに収まった。

五日後に新聞を見せに来てくれた。上等兵殿の風貌あるお顔と別人の様な私が撮っていた。その後、三鷹電車の暴走事件が起きた。無人電車が走つたのだ、冷水を喉に通した私です。敗戦後社会が労働運動の展開に入り、沢山の会社で労働組合を成立し、違つた空気が吹き始めた。競馬、競輪が盛んになり私はおたおたしつ。パチンコの出玉の音を聞きながら職場に向かった、今日も……。

銀座にも夕焼け雲がやつて来た。(おわり) 私も八十を過ぎ目に異常を感じ病院でも細かい文字は避けた方が良い言われたので、これをもつて筆を置く事にいたします。私の拙い文章をご愛読を戴きました事、厚くお礼申し上げます。有難う御座いました。

### コンプレックス考

広報部長 清水 弘允

私はコンプレックスと言う言葉にとっても興味があります。何故なら、それは誰もが持つていな



がら、正面からは直視しながらない何か得体の知れないものだからです。そのくせ、或る人を理解しようとした時、その存在を介して理解すると、すこく分りやすい経験があるからです。

ところでコンプレックスとは何でしょうか。私達が日常コンプレックスと言う時、それは劣等感と言う意味で理解されているのではないのでしょうか。確かに劣等感とはコンプレックスのひとつですが、心理学では色々のコンプレックスが挙げられています。優越感もまたコンプレックスのひとつと考えられています。

心理学でコンプレックスの定義を探してみますと、コンプレックスとは「何らかの感情によって統合されている心的内容の集まりである」と書かれています。日常会話で使われているコンプレックスには、マザコンとかロリコンなどありますが、これもコンプレックスの形態のひとつです。「何か無視できない、心の中の固まり」とでも言えはいいでしょうか。

無意識の世界を研究対象にした心理学者として、フロイドとユングがあげられます。フロイドは、人間のさまざまな活動の動機を説明するものとして、性的エネルギーの存在を考え、それをリビドーと名づけました。ユングは人間の心の奥に動く無意識を深く分析し、個人レベルの解釈から、社会にはびこる神秘主義にまで解釈を広げていきました。

心理学でよく出てくるコンプレックスの例を挙げますと、マザコンに近いのが、エディプス・コンプレックスで、ファザコンに近いのにエレクトラ・コンプレックスがあります。共に子供が異性の親に対して抱く強い愛情や対抗心を、ギリシヤ悲劇の登場人物の名前を借りて表現したコンプレックスです。これはフロイドのリビドーで解釈すると分りやすいと思います。

先ほども書きましたように、日本ではコンプレックスを劣等感の同意語として使っていますので、そこから色々の表現が出てきます。たとえば容姿に対するコンプレックスとか、職業に対するコンプレックスとか、学歴に対するコンプレックスなどです。

コンプレックスの特徴はいくつもありますが、ポイントは、必ずしもそれが客観的な事実ではないことです。事実としてあった場合でも、本人が意識している程には、周りの人は何とも思っていないところにその特徴があります。

コンプレックスの定義に出てくるように、「何らかの感情によって統合されている心的内容の集まりである」から、その人にとつては気になって仕方ない事柄でも、他人には何でもない事が多いのです。

皆さんも経験されていると思いますが、自分を含め人間とは、ある事になると特にむきになったり、意識したり、頑張ったりします。それがある種のコンプレックスが動機と解釈してみると、見えてくる場合があります。例えば、事業拡大に積極的な人、お金に執着する人、役職にこだわる人、プライドが高かったり、逆に卑

下する人、仕草や喋り方に癖を持っている人、異性の好みなどです。

このように人間誰でもコンプレックスを持っています。コンプレックスから逃げられないのなら、コンプレックスとうまく付き合う事を考えた方がいいでしょう。一番良い付き合い方を工夫するのが知恵と言うものです。徹底的に自分のコンプレックスを分析して、その原因を究明するもよし、自分はどんなコンプレックスを持っているか、ちよつとだけ考えて後は放っておくのもいいでしょう。ただ自分にもコンプレックスがあつて、それが自分の行動を縛っている部分があることを心の片隅で自覚しておいた方が、自分を理解する上で、しいては他人を理解する上で、プラスになるのではないのでしょうか。

我々はこの世に生を受けてから、まったく一人で育つ事はありません。生まれてから大人になるまでずっと外界との接触を通じて成長します。その間、家庭では親兄弟との愛情、摩擦を経験し、学校、社会では、多くの友達、同僚、上司、部下との接触、衝突を経験します。そして結婚しては配偶者との長い付き合いが待っています。自分の内面的、外面的強さ弱さを知らされるし、金銭的に余裕があるのか無いのかも思い知らされます。つまり「何らかの感情によって統合されている心的内容の集まり」を形成せずにはいられません。コンプレックスとは、人間が成長する過程で、精神的につぶれてしまわない為に処理能力を超えた部分を心にしまっ

ておく安全装置かも知れません。  
コンプレックスを否定的に受け止めるのではなく、肯定的に、前向きな動機付けとして受け止め、エネルギー源として使って行きたいものです。

## お知らせ

〔平成18年11月会議・催事予定〕

2日(木)常任理事会(PM2時30分)

理事 会(PM4時)組合会議室

7日(火)青年部幹事会

(PM6時)組合会議室

8日(水)海外研修(中国・上海)

説明会(PM5時)組合会議室

10日(金)～11日(土)古紙センター

静岡地区1泊研修

(名古屋・高山・白川郷方面)

13日(月)業務部長・支部長会議

(PM4時)組合会議室

20日(月)～23日(木)直納部共販委員

海外研修三泊四日(中国・上海)

21日(火)古紙センター

関東地区委員会(PM2時)

29日(水)古紙センター

業務委員会(PM1時30分)

## 訃報

全原連役員会(PM2時30分)  
30日(木)古紙センター

静岡地区委員会(AM11時30分)

山手支部 山吹紙業(代表者・近藤直樹様の  
ご母堂様 近藤幸子様(享年73))

平成18年9月16日逝去

荒川支部 勝村商店(代表者・勝村靖様の)  
奥様 勝村 博子様(享年71))

平成18年9月19日逝去

## 【会社組織変更】

旧本名 三栄紙業社 (代表者 若月順二)

(新) 有限会社 三栄紙業社

代表者・住所・電話番号・FAXは従来通りです

## 【古紙価格】

〔東資協の古紙4紙の標準売値〕

平成18年10月10日現在

- \* 新聞 6～7円(横這い)
- \* 雑誌 3～5円(横這い)
- \* 段ボール 4～5円(横這い)
- \* 色上(並) 3～5円(横這い)

## 関東商組の融通(共販)事業

〔平成18年10月度実施の共販価格(kg当り)〕

〔新聞古紙〕 休止

〔段ボール古紙〕 10円50銭/kg

プレスもの・店頭価格

## 会議概要(9月10日)

### 9月度定例理事会

(平成18年9月4日(月))

出席理事24名(於)組合会議室PM4時～

### 皆川理事長挨拶

駐車違反問題で7月と8月に警視庁・警察庁を陳情のため訪問し当業界の現状を説明したが、すぐの返答はもらえていない。8月に東京都リサイクル事業協会多摩支部に出席した際、協会関係者にも相談し東リ協全体の問題としてお願いをしてみたらどうか検討してもらっている。具体的なお話ができるまで迄、もう少しお待ちいただきたい。

## 〔各部報告〕

〔総務部〕報告なし。

〔直納部〕8月9日に直納部共販合同委員会を開催した。本来、(株)松本光春商店様を呼んでお話を聞く予定でしたが出来なかつた。又、委員より上白の組合輸出に取組んでもらえないかとの意見があつたので現在、松本光春さん他、数社にお願ひをして検討してもらつてゐる。研修旅行を11月20日(月)〜23日(木)の3泊4日を予定している。JALを使い費用は11万5千円の予定。20日午前中に上海に入り午後近郊のメーカーを見学。2日目、移動しAPP工場を見学。3日目は自由時間をとり4日目に帰国の予定。

市況に関しては、全般的に古紙は上物、裾物、問わず強含みの状態となつてゐる。7月の輸出は328,730トン前年同月比110.2%、7月までの累計でも108.6%で昨年より1割ぐらゐ強い。関東商組では、7月の輸出買取価格は、段ボールで一口12円60銭、もう一口は12円50銭、新聞は13円30銭、雑誌11円10銭といずれも国内価格より2円程高く、非常に高い値段がついてゐる。そうした状況の中、国内DIP増設の影響で今後、混乱した状況が続いていくのではないか。

## 〔品種別市況報告〕

〔上白・特中白〕バルブは強含み。国際価格上昇

中。上白は横這いで良くはなつてゐない。一部、新たに上白使用メーカーもでてきている。回復モードの代替品として使われている。今後、輸出も含めて上白に対する需要は近年安価になつてゐることもありもつと増えてくる。

〔家庭紙原料〕六戸直納副部長より：7・8月とも産業古紙の発生が非常に悪く家庭紙原料は、極端に在庫が減少している。そこにきて大手メーカーが家庭紙のケントを使用したいという発表があり業者にどれぐらい入るか打診をしている。四国の大手メーカーが上ケント、模造類をテスト的にすでに東京から運んでいる。そこにきて輸出も非常に好調である。この秋には全般的に逼迫すると思う。是非、この時期に家庭紙の値段を上げて大手とか海外に出ないようにしてほしい。これは皆さんからの意見です。それぞれの取引先の業者からお話があると思ひますがよろしくお願ひをいたします。という主旨の説明をしてきた。反応として、皆さんある程度は解つてゐる。だが製品の価格が思うようにならぬ。10月からはやむを得ないと思つてゐるメーカーが大半でした。

〔切付〕M製紙に聞いてきた。雑誌の値上げがあつた。今のままでは残本類と同じ価格なのでさらに大手に流れてしまう。ここで上げてもらわないと入らなくなる。特更メーカーと我々業者との懇談会を1年行つていないので、懇親会やゴルフでもどうかと話をしてきた。特更メー

カーとしては担当者が變つたメーカーも2〜3社あり7日に集まり相談をして返事をするとのこと。

〔新聞・雑誌〕市況的には雑誌が8月1日から上がったメーカーがある。長雨により発生も少し落ちたこともありすが、国内の需要も伸びてゐること輸出も増えているので需給のバランスは非常に厳しい状況になつてゐる。

〔ダンボール〕ダンボールは、毎年8月は発生が落ちるのだがメーカーからの発注が多かつた。秋口に向かつて在庫増しをしないと来年の1〜2月期に間に合わないの、いち早く在庫増しをしてきた。ダンボールは、8月にアメリカ物が少し下がつたが、逆に新聞が上がつた。8月初め高く契約をしたところが9月分の実績となつてダンボールについて少々、値上がりをした。新聞と雑誌に関しては、むこうのバイヤーが8月の終わりから新聞と雑誌を欲しがつた。新聞は、ある程度、天井価にきてゐる。雑誌は11円円を関東商組が突破してしまつた。雑誌とダンボールの差が逆に詰まつてきて国内への入りが少なくなつてきてゐる。10月初めの国慶節で中国の状況がどうなるか。クリスマス商戦があるのでダンボールその他は、引き続き強含みと思われる。寧波のAPPで8月に火災が発生したため1万トンぐらゐが焼失した。したがつて、資金的に困つてゐる。小さい白板工場に負ける。今度、中国に行つた際はAPPの配合を調べてほしい。今後、バルブの配合を高めて高級白板にはしるのでは

ないか。その方が製品も安定すると思う。売れる物を作っていくかないと市場を席巻できない。製品の販売合戦。中国は人的コストが安く使える。日本でも、いち早く王子製紙がTOBを行ったのは北越の安いコストにある。売れるとなると中国は高くなり買わないと解ると逆に安くなる。日本は買ってくれそうと欲しくない。

〔上白紙〕発生は少ない。

〔返本雑誌〕8月から回収雑誌は1円上がりましたので返本のビニール雑誌より高くなつてしまつた。9月1日から一部の大手メーカーが残本関係を全部1円上げてきた。他のメーカーはこれに追随していない。

〔オフィス古紙〕あまり変わり映えはなく発生は悪いと思う。

〔集荷部〕古紙の発生状況は7・8月とも夏の暑さ、大雨、夏休みの影響で減少している。組合の活性化委員会が決めた回収費用は、相手先からもえす苦慮することが多くなつている。古紙価格は一般的に安いので全体的には売上は伸びない。この様な状況下に於、強引な古紙の買入れ競争があり、それが及ぼす影響は大きいものがある。組合員だからといえども相手先の事情も加わり古紙を取り巻く状況は、今後、一段と厳しさを増すものと思う。自分の得意先は、組合でも守ってくれないので自分自身で守って行くことが肝要だと思う。集荷部会を早急に開催したいと思う。

〔広報部〕広報9月号の発行に向け最終の段階にきている。9月15日頃に発送の予定です。通常の前稿は広報で今までもどおり扱っているが、議事録関係、外部団体等の会議録等を四ツ家事務局長を通じて扱っていたため収集するのに手間がかかったが、結果的に確保できた。今回支部会が納涼会を中心に原稿を多く出していただき、組合員の広場などの各原稿にご協力いただきいたので、いつもどおりの形で出せるメドがついた。

広報送付の際、全原連のロゴマーク公募案内を同封する。東京協組のロゴマークについては、問題が多いので、ペンディングとする。

〔事業部〕少し早いのが新年会についての案内をする。来年の1月20日(土)で場所は日暮里「ラングウッド」。

前回はフラメンコを実施したが今回はまだ決めていない。各支部長さんにご協力いただきすすめていきたいのでよろしくお願いします。新会社法の勉強会をこれから計画を練って実施したい。講師を呼んで人数も50名ぐらい入れる会場を用意したいので事務局及び広報部の協力をお願いします。

〔青年部〕9月22日～23日に北海道の王子製紙小牧工場に研修旅行で行く。参加者20名。もう1泊できる方はオプションとしてゴルフ

を用意している。

古紙センター

静岡地区委員会

〔平成18年9月15日(金)〕

16時30分～於フジロイヤルプラザホテル  
出席者：メーカー6名・業者24名・事務局3名・本部3名(堀川理事長・鈴木専務理事・白川部長)

〔市況動向〕

〔第一部会〕上物古紙

産業古紙全般は、6月以降発生が減少したままの状況が続く、入荷が依然として低調に推移している。大手メーカーのDIP増設に備えた買付けも一段と目立ってきており、月を追うごとにタイトな状況になってきている。

〔上白〕発生・使用とも少ない状況に変わりはないが、輸出がコンスタントに行われており、国内は若干タイトな状況が続いている。

〔特中白〕メーカーの季節要因による一時的な使用増があり、若干タイトな状況にある。

〔板紙・ケント・色上〕発生が少なく、入荷も減少している。メーカーの使用に変化はないが、今後のDIP増設による消費増を踏まえて買付けが旺盛で、一段とタイト感が出ている。特に色上については、8月末にメーカーから価格修正が入り、発生が少ない中、取り合いの状況に

なっており、非常に不足している。

〔家庭紙〕発生率が少ない中、洋紙メーカーの古紙使用参入、輸出価格の現状を踏まえ8月末に関東地区の業者さんから静岡地区のメーカーに2円価格修正の申し入れがあった。家庭紙メーカーでは9月16日から、これを飲むようである。

〔切付〕家庭紙と同じ時期に値上げ要請があり、9月7日の富士地区の特更部会で検討の結果、糊付は10月1日からプラス1円で決着したようだ。糊なしについては、個々対応で動いているように聞いている。

#### 〔業者側コメント〕

〔板紙・ケント・色上〕一品色上が非常に不足している、業者間で取り合いで仕入価格が騰がって困っている。

〔家庭紙〕9月16日から2円をお願いしたが、この要因はメーカーの説明の通りであるが、輸出が非常に好調であることを付け加えておきたい。

〔切付〕先日の雑誌の1円の値上げに連動して上げていただくことで、糊なしについても、10月1日から1円の値上げがほぼ決定であろうと思われる。

#### 〔第一部会〕新聞・雑誌

〔新聞〕洋紙メーカーの在庫は潤沢であり、さらに積み増しを継続中というのが現状である

が、富士地区でも7月の岳排休転で各メーカーとも在庫を大分持っている。8月に入り、入荷も比較的順調で、一部未納もあるようだが、全般的に計画通りの在庫水準を保っているようである。

〔雑誌〕8月にメーカーが1円値上げを実施しているが、依然として水準が低い。富士地区においても、メーカー在庫は低水準で推移していた。特に8月前半は入荷が悪く、在庫がタイト感を増した時期もあった。9月に入っても、入荷が薄い状況が続いているようである。

#### 〔業者側コメント〕

関東32社の1～8月の累計は、新聞古紙が前年同期比で入荷が109.9%と非常に高い水準であった。出荷が109.5%、8月末の在庫が11.3%となっている。関東商組の輸出は5月の建値134\$を底にじわじわ騰がってきて9月は143\$・13.50円と今年一番の高値になっている。これは従来、板紙の原料として使われていたものが、洋紙に使われるようになってきていて、オフアが増えているためと思われる。

雑誌の1～8月の32社の入荷が103%と、これはまともな水準といえる。在庫率が10.7%となっている。輸出価格は、6月末の116\$が底で、今月は123\$・11.20円と騰がってきている。

関東商組の需要予測の委員会で、年初にこの

1年の予測をして、370～390万tの需要ギャップがあり、それだけの輸出余力があると予想していた。上半期の実績がでたところで、これを基に需要の見直しを試みた。この結果、ダンボールについては、1,746千t、新聞は767千t、雑誌は895千t、その他978千tと、トータルで4,305千tで、年初に予測したよりも若干多目の輸出余力があると修正した。

#### 〔第三部会〕段ボール

7月は岳排休転があり、富士地区メーカーでは在庫増になった。8月は若干荷が悪かったが、メーカーから見れば使用するだけのものは入荷したといえる。9月に入って全般に入荷が落ちているのではないかと思う。段ボール原紙は、前年対比で7月の生産が99.2%、販売が98.5%、8月は生産が100.9%、販売が99.9%と前年と同じような数字で推移している。

#### 〔業者側コメント〕

8月は関東・北海道では7月比で1.5ほど上昇したが、逆に中部以西特に中国・四国・九州では5%強減しているようだ。全体としては7月から8月にかけて横這いの数字が出てくるものと思われる。静岡地区においても大体同じようであるとうと推測されている。9月の現在までの入荷状況は、あまり大きな変化はないようであるが、この後、秋の長雨とういことになると、若干

発生が悪くなるということも予測される。問屋の仕入れ価格については、やや強含みで推移していると思われる。8月の輸出価格は関東商組で12.30円、9月度は12.60円であり、為替レートが2円ほど円安に振れたということ、その影響が出ているようである。中国の国慶節の関係で、今週末から1週間ないし10日ほど、中国向けのコンテナが一時ストップする（ことになる）と思うが、この間は他国へ振り分けて調整される。中国についても、9月の最終週にはコンテナ積みが復活すること、あまり大きな影響はないと考えている。

古紙センター

**関東地区委員会** 平成18年9月19日(火)

PM2時(於)古紙センター会議室

**需要動向** 06/8月

単位トン、( )は対前年同月比

在庫の( )は在庫率

**関東商組3社実績**

**新聞**

仕入 84,240(114.2%)

出荷 86,517(115.2%)

在庫 9,767(109.6%)

**雑誌**

仕入 58,456(103.9%)

出荷 57,926(102.4%)

在庫 6,170(72.2%)

**段ボール**

仕入 133,257(103.0%)

出荷 132,783(103.5%)

在庫 10,973(94.1%)

**関東・静岡実績**

**新聞**

入荷 229,374(107.2%)

消費 241,278(104.8%)

在庫 179,099(74.2%)

**雑誌**

入荷 130,054(102.7%)

消費 121,914(93.0%)

在庫 51,557(42.3%)

**段ボール**

入荷 294,386(101.1%)

消費 283,343(103.0%)

在庫 106,266(37.5%)

**業者側コメント**

**新聞・雑誌** 3社の発生状況は、新聞・雑誌とも変わらない。国内対比でみると1月から8月の累計で新聞が109%で非常に高い。雑誌については103%で特に7・8月は101%で回収の限界が現状見えてきているのではないかと。輸出は新聞で7月は前年比106%、雑誌は110%で8月は、このトレンドから見ると変化はないのではないかと思っている。問題は雑誌・新聞とも輸出の勢いが止まらない。新聞は14円から限りなく15円に近い。輸出のトレンドは3

〜4ヶ月大きな変化はないと思う。

**ダンボール** 入荷は昨年と変わらない。輸出は、ほぼ均衡がとれているが中国の製品価格が騰がっていない。需要はあるが価格は騰がっていない。仕入も販売も安定している。

**メーカー側コメント**

新聞・雑誌は消費が2,700tほど上がった。段ボールは消費量が8月は落ちた。9月前半はペースが悪いが後半に期待している。

紙センター

**業務委員会**

(平成18年9月28日(木))

PM1時30分(於)古紙再生促進センター

報告 [1]全国古紙の需給・市況動向(日18年8月度)

詳細は紙面の都合により割愛させていただきます。

**全原連役員会**

(平成18年9月28日(木))PM2時30分(於)古紙再生促進センター

理事・監事56名：出席48名(内、委任出席17名)欠席8名

●役員会開催に先立ち、畑前全原連理事長に感謝状と記念品が栗原理事長より贈呈されました。

(1)古紙再生促進センター関係

①平成18年度調査研究事業委員会(全原連委員)報告。

・「古紙利用率向上促進対策委員会」

委員：大久保信隆理事、瀧本義継理事、長崎専務理事

・「オフィス古紙リサイクル状況調査委員会」委員：新井勝夫理事、小六信和理事、長崎専務理事

・「新規用途促進対策委員会」

委員：上田雄健理事、長崎専務理事

②紙リサイクル経験者の活用制度(OBボランティア)協力お願い報告。

・各組合に申請説明資料一式配布済

③業務委員会(9月28日開催)報告。

(I)平成18年10月～19年3月段ボール

新聞・雑誌の消費計画の件

段ボール 10月～12月 前年比98%

1月～3月 前年比99.5%

10月～3月 98.7%

新聞 10月～12月 前年比103.7%

1月～3月 前年比104.2%

10月～3月 103.9%

雑誌 10月～12月 前年比102.5%

1月～3月 前年比105.0%

10月～3月 103.7%

(II)理事、評議員の一部変更の件

新任理事

江良正勝(住商紙・ルプ株)

岡村光二(王子古紙・ルプセンター株)

園田邦一(商工組合中央金庫)

新任評議員

田井広志(王子板紙株)

秦楽俊一(日本大昭和板紙株)・

高橋良智(商工組合中央金庫)

田口 満(王子古紙・ルプセンター株)

夏目 茂(東京都製紙原料協同組合)

村島和夫(中越・ルプ工業株)

(III)「雑がみ、オフィスペーパーの分別排出基準」の一部改定の件

「ワックスなどで防水加工された紙」を「防水加工された紙」に改定する。

(IV)平成18年度紙リサイクルセミナー開催の件

開催日時 平成18年10月17日(火)

13時～16時

開催場所 虎ノ門発明会館ホール

(V)平成18年度紙リサイクルペーパーフェア開催の件

長野県開催 9月16日～18日

イトーヨーカドー長野店

東京都開催 10月13日～15日 アリオ亀

有

(2)段ボールリサイクル協議会

(運営委員会8月28日開催)報告。

(3)経済産業省産業局生活文化用品課懇談会

(8月4日開催)報告。

・加藤課長(新任)、岡宮課長補佐、尾里係長、

全原連正副理事長、大久保理事。

・議題として全原連組織及び活動内容、各地区市況報告及び中国状況説明。

・大久保理事より日中商品検査(株)検査員登録に関し、経済産業省が大変尽力して頂いた旨の報告をされました。

(4)正副理事長会(8月4日開催)

・全国中小企業団体中央会創立50周年記念式典協賛金について支出役員会上程承認。

・協賛金：5万円以上

(1口25,000円以上2口以上)

(5)総合運営委員会(8月4日開催)

●経営革新委員会(9月27日開催)

①取引条件改善事業については家庭紙メーカーを対象に各地域のメーカーを確認

(中部・九州地区)。10月上旬にお願い文信

を発送する。

②「秋の作業安全月間」

実施については来期以降年1回ポスター・リーフレットを発行し、作業安全月間マニアルを作成する予定。

③「古紙商品化適格事業所認証制度」(案)及び

「古紙リサイクルアドバイザー認定制度」(案)の説明があり、本案を各組合で検討の上、11月29日役員会で討議検討する。従って役員会で

決定された段階で各組合の総会決議事項とし、

且つ全原連総会決議事項とする提案がなされ

承認された。

④(財)古紙再生促進センター事業として「古紙

品質認証制度」の経過報告。

品質認証制度」の経過報告。

当組合の「商品化適格事業所認証制度」との整合性を将来的に検討する。

⑤ エコアクション21の認証取得支援についての報告。

● 需給委員会(8月4日開催)

① 3月に実施されたアメリカ古紙視察研修反省会

② 18年度の海外研修会はインドへ視察調査を予定。

③ 取引単位の推進(国内取引トン単位)、販売先製紙メーカーに対し「トン」表示を仕入先は当面従来の「KG」表示とし、実施平成19年4月目標。本議案は総会決議としたい旨提案があった。

● 卜推進委員会

① ホームページ全面見直し、統計資料関係は古紙センター直接リンク。

② ネット事業・製紙原料卸システムのアンケートをソフトメーカー(東芝情報機器)聞き取り調査に変更し実施。

③ 全原連・関東商組合同委員会を10月4日～5日京都市で開催。4日古紙再生促進センター堀川理事長の講演が開催される。

● 渉外広報委員会(7月14日開催)

① ロゴマーク公募について、案内の文信内容の中で渉外広報委員の応募不可を削除し、応募については委員会及び事務局より再度連絡のこと。

(6) 総務・財務委員会(9月22日開催)

① 7・8月経理・財務内容審査順調に推移して

いる旨を報告。

(7) 経営革新委員会「秋の作業安全月間」(10月1日～31日)実施

・ポスター「指差し呼称でゼロ災ヨシ」・リーフレットを古紙再生促進センター協賛で作成し、各組合員及び組合員へ配布。

(8) 機密書類・シレッター古紙アンケート調査実施(9月20日締切)

・7組合未回答の報告。

(9) 30周年記念行事及び実行委員会発足について承認。

・第30期総会(19年5月25日開催、当番関東商組)

・実行委員長に関東商組深田理事長に決定。

(10) 「全原連平成18年度組合員名簿」配布の件

・10月上旬各組合事務局へ配布、事務局より各組合員に配布お願い依頼(無料)。

・組合員追加及び組合員以外要望された場合、1冊1,000円(有料、全原連事務局へ連絡のこと)。

・個人情報保護法の施行により取扱には注意願います。

(11) 各地区報告

北海道商組…3品発生前年並。生産段ボール減。8月1日より新聞・雑誌50銭値上げ。

東北協組…8月減産により在庫増。問屋在庫減少。価格高値推移。

関東商組…仕入・出荷順調、在庫タイト。仕入価格高値推移。需給予測説明。

東京都協組…荷動き低調。家庭紙メーカー2円、サイラク1円値上げ。

静岡商組…入出荷順調。家庭紙メーカー2円値上げ。今後の動向如何様子見。

中部商組…メーカー在庫4～8月減産により1万トン増。3品発生前年並、問屋在庫減。入札価格高値推移。

近畿商組…3品の内雑誌入荷厳しく、問屋在庫も厳しい状況。家庭紙西方面は上がっていない。10月に動きがあるのでは。

中四国商組…家庭紙メーカー2円追従(10月上旬の動き)。雑誌は相変わらずタイト感が続く。メーカー在庫減少気味。仕入横這いで推移。

九州商組…家庭紙メーカーの対応地域差あり値上げしていない。価格変化なし。

台風の影響でメーカー在庫、問屋在庫低調。

### 10月度定例理事会

(平成18年10月3日(火))

出席理事2名(於)組合会議室p.m.4時

皆川理事長挨拶

直納部委員の皆様の方で産業古紙の相場の動きが出て価格が修正された。集荷の皆様にとっても少しは明るい話ではないのかと思う。業界では、メーカーの統合・廃業等、こころをきいて大き



な動きがある。そんな動きがある中で、組合でも幾つかの問題点が起こっているので本日は色々な意見を伺いたい。

### 〔各部報告〕

〔総務部〕古紙センター主催のリサイクル・ペーパー・フェア10月13日～15日(アリオ亀有1階サニーコート)とリサイクルセミナー10月17日(虎ノ門・発明会館ホール)があるので出来るだけ参加してほしい。城南支部の(株)船戸商店が9月末で廃業した。

〔直納部〕今月に静岡県紙業協会家庭紙部会との懇談会が開催されるので、それに先立ちまして16日に集直合同委員会を行う。又、特更メーカーとの懇親会(ゴルフコン)を家庭紙部会との懇談会の翌日に行う。国内の家庭紙原料の価格が修正になったことを受けて海外との格差が広まったことから、今月末に(株)松本光春商店を迎えて共販委員会を行い来月以降についての相談をしたい。海外研修旅行について現在15名の参加申込がある。

見学予定であったAPPが8月に火災があり受入中止となった為、別の見学先に変更する予定である。費用は11万5千円のバックに食事代・移動費用等を加算した参加費となる予定で決まり次第連絡をする。

市況については、家庭紙原料が9月16日から切付が10月1日から価格修正となった。DIP

向けも不足感が強まっており輸出が好調なこともあり、かなり逼迫した状況が続いていくのではない。8月の輸出は332,643tで前年対比103.1%。段ボール・上物古紙が伸びているが新聞・雑誌が96.2%・98.8%と若干前年同期に比べ落ちている。関東商組の10月の共販輸出価格については問屋店頭価格で新聞が14,11円と14,10円の二口(中国向け)。雑誌は11,61円(中国向け)。段ボールは中国向け12,50円タイ向け12,40円と9月に引き続き国内とは格差のついた価格で推移している。

### 〔品種別市況報告〕

〔上白・特中白〕上白は国内の消費が少ないが輸出でバランスがとれている。中白についてもバランスがとれている。パルプの対日輸出価格は8ヶ月連続で上昇した。原油高による生産コストの上昇等を理由に、パルプメーカー側が求めている値上げがほぼ満額で決着した。国内メーカーも原材料のコスト上昇を理由に値上げ姿勢を強めている。日本製紙・三菱製紙はLBKPの価格を10月1日出荷分から1キロ5円上げると表明した。

〔家庭紙原料〕家庭紙原料は9月16日からほぼ2円上がった。値上げについては8月中旬からメーカーに働きかけ9月の中旬にやっと動いた。各方面の協力があつて実現したが今後、同じようなことが起こった場合は、強い協力が無いと

実現できないのでお願いをしたい。家庭紙を取り巻く環境は非常に厳しい状況にある。

先月、九州の製紙メーカーが自己破産をしたこともあり今後も、このような事が起こる環境にある。

〔切付〕切付は10月1日から1円の値上げ。

〔新聞・雑誌〕価格の変化はない。国内の消費は前年対比で伸びている。輸出も多くなっている。各問屋では逼迫している。

〔ダンボール〕ダンボールは、関東の輸出価格は10銭ほど下がっている。中国の国慶節の影響が出ているのではない。ただ、アメリカが少し持ち直してきているので国慶節後の契約は少し上がるのではないかと思われる。国内のメーカーは前年並み、問屋も1%ぐらいの伸びで海外次第となってきた。パルプが上がっているので先高感はある。

〔返本雑誌〕価格は10月1日で足並みが揃った。発生は、相変わらず少ない。

〔オフィス古紙〕オフィス古紙は機密関係が多くなっている。オフィスから直接メーカーを指定するケースが多くなってきた。一般的な輸出関係はバラバラである。

〔集荷部〕輸出が好調のわりに価格が低く抑えられている。集荷にとつて今回の価格上昇については非常にありがたいと思う。これから家庭紙は、需要期に入るのでそれぞれ頑張つて営業活動をしてほしい。また、発生が少ないことが心配

であり、値上げによる変な過当競争についても警戒をしている。産廃業者がゴミではなく原料にも手を出してきているので注意をしている。集荷部会を10月28日に行うので集まってほしい。

〔広報部〕現在、11月号の準備をしている。前回発行時に心配した会議概要に関しては、今回は心配をしていない。最近、組合員の声を反映するような記事が減ってきたので今後は多く取り入れたい。支部でどんな事があつたかを記事にしたいので原稿を出してほしい。ここ何回か掲載されていない支部は特にお願いをしたい。原稿を10月末で締めて、11月15日頃届くように進めたい。

〔事業部〕来年の1月20日(土)に日暮里「ラングウッド」で新年会を行う。支部長、青年部の協力をお願いしたい。何か催し物があれば取り入れたいので申し入れてほしい。司会と中締めは、前年度の経験者にそれぞれ指名していただくので11月13日の支部長会議までに考えておいてほしい。

〔青年部〕9月22日～23日に北海道の王子製紙苫小牧工場に研修旅行に行ってきた。歴史のある製紙工場であり広報で紹介をしたい。

〔その他〕○皆川理事長より：9月12日に東京都リサイクル協会として駐車違反問題の件

を文書で自民党に緊急要望として提出をした。結果に関しては後日となる。

○足立支部より：退会者が多くなってきた。(株)齊藤商店が本年度まで(2年前頃から商売をしていない)と

(株)山本勇一商店(今年6月で廃業)で退会を希望している。

○組合員より：以前行ったフォークリフトの免許を組合でとれないかとの意見が出る。以前のような料金的メリットが少ないので事業部で調べ後日、報告する。

古紙センター

関東地区委員会(平成18年10月19日

(木)

PM2時～於)古紙センター会議室

〔需要動向〕06/9月

単位トン、( )は対前年同月比、  
在庫の( )は在庫率

〔関東商組32社実績〕

〔新聞〕

仕入 85,788(105.0%)

出荷 86,858(108.1%)

在庫 8,697(84.5%)

〔雑誌〕

仕入 59,357(102.6%)

出荷 59,073(102.8%)

在庫 6,454(72.1%)

〔段ボール〕

仕入 134,318(104.8%)

出荷 134,382(104.9%)

在庫 10,909(93.6%)

〔関東・静岡実績〕

〔新聞〕

入荷 221,174(101.8%)

消費 226,618(106.2%)

在庫 173,655(76.6%)

〔雑誌〕

入荷 128,584(96.4%)

消費 122,175(90.6%)

在庫 57,966(47.4%)

〔段ボール〕

入荷 292,821(99.3%)

消費 301,384(99.3%)

在庫 97,703(32.4%)

〔業者側コメント〕

〔新聞・雑誌〕9月の32社の発生状況は、新聞・雑誌とも特別大きな変化はない。チラシが多くなっている傾向の中で順調に新聞の回収が増えている。新聞の輸出は105%と伸びている。雑誌についても非常に順調である。

〔段ボール〕32社で前年比104.8%、1月から9月までで116万1千と前年より1.2%増えている。出荷も9月は104.9%、通期で116万9千587と100.6%と相変わらずで、在庫もない状態が続いている。輸出は8月

が14万9千と9月も8月並にいくのではないか。国慶節前のせいで多少、少なくなるかもしれないが14万もぐらいいくのではないかと思われる。中国は段ボール原紙の売れ行きが非常にいい。

### 〔メーカー側コメント〕

ダンボールの9月の入荷は良くなかった。在庫は減らさずにすんでいる。10月に入って段ボールの入荷は9月に比べ少し良くなってきた。

新聞は入荷にバラツキがあり、あまり良くなかった。天候の問題があるのかもしれない。9月の需要が96.5%、1月～9月の平均で100.5%であった。

### 集直合同委員会

〔平成18年10月19日(木)〕

出席委員18名(於)組合会議室PM4時～

### 皆川理事長挨拶

本日は、10月25日の家庭紙原料部会との懇談会に向けての打合せをしたい。関東地区委員会での報告を聞くとメーカー側からは、9月の製品の売れ行きと古紙の入荷が今ひとつ少なかった。家庭紙については、ここところトイレットペーパーの安値が少しなくなってきたのではないか。そんな話題も含めて25日に向けての討議をよろしくお願いをしたい。

### 〔連絡事項〕

① 上白の輸出についてアンケートの結果、輸出を希望される会社が2社しかなかった。2社では輸出は無理なので、皆様の同意を得て今回は見送ることとする。

② 10月31日に共販委員会を開き(株)松本光春商店(鈴木専務)を呼んで、今後の輸出、価格等について意見交換をしたいので参加してほしい。

③ 11月の海外研修で予定していたAPP工場が8月の火災の影響で不可となり訪問先が変更となった。代わりに富陽地区の古紙の朝市を見学する。現在15名の参加者だが他に希望者がいれば申し込んでほしい。

④ 荒川支部(株)汲田商店が廃業のため直納部を脱退する。(組合は来年の3月末まで)

### 〔家庭紙について〕

家庭紙は2円の価格修正があったが、このままいくと今年中か来年の春までに、もう一度、修正をしなければならぬ状況である。

### ○集荷部からの意見

\*現状は、都内の古紙の発生は前年を下回っている。新聞・雑誌・段ボールの発生が少ない。家庭紙のケント・模造・色上も少ない。9月後半から10月にかけて、2円の価格修正があり、集

荷としては寄与しているが経営としては厳しいものがあると思われる。

\*今の段階は、逆有償の境目にある。

\*価格が上がるのはいいが、すぐに下がるなどのアップダウンが怖い。ある程度、価格帯が安定した方が商売はやりやすい。

### ○25日の会議についての対応として

\*現状の古紙の発生状況を説明する。

\*需給バランス、製品在庫、製品価格の問題について。

\*洋紙メーカーの動向(使用予想)が、まだ具体的に打ち出されていない。我々が、ある程度の使用予想をしている中で家庭紙メーカーに納入してもらおう。

\*家庭紙古紙は時代とともに変化していることを理解してもらおう。危機感を持ってもらうことと、昔と比べると波が少なくなってきたこと家庭紙だけの古紙ではなくなってきたことを理解してもらおう。

### ○直納部からの意見

\*値上げだけを求めるのではなくて、安定した価格帯を求めていることを説明してもらいたい。

\*問屋としても価格は安定している方がありがたいのと、需給バランスは大事であることを理解してもらおう。

\*家庭紙の使用から板紙、洋紙に流れているこ

とを説明する。

\*DIP増設により家庭紙原料が不足することとを説明する。

\*古紙の適正価格について話をする。

以上の内容を踏まえ、会議に対応していく。

### 静岡県紙業協会家庭紙部会との懇談会

〔平成18年10月25日(水)午後2時〕於

富士工業技術センター大研修室

出席者：静岡県紙業協会家庭紙部会26名

(内、家庭紙メーカー19名)

静岡県製紙原料商業組合 7名

東京都製紙原料協同組合 9名

三団体代表挨拶

古紙全般の市況について

近藤副理事長(東京都製紙原料協同組合)

関東商組32社の9月の仕入は、新聞105%・雑誌102.65%・段ボール104.8%と三品とも大幅に集荷が増加している。この数年段ボールの回収量は横這いが続いているが新聞は3年前、雑誌は2年前から行政回収の徹底、チラシの増加等によって前年を上回る回収増が続いている。問屋の古紙在庫は毎年減少を続けている。在庫率は、9月末で新聞10%、雑誌10.9%、段ボール8.1%となっている。古紙の

回収量は、昨年に比べて81万tの増加、1昨年は、その前年に比べ106万tの増加。今年は1～6月で36万tの増加で今年1年間で70万tの増加になるのではないかと。その増加分がすべて輸出の増加につながっている結果となっている。

昨年の輸出量373万tは、1昨年に比べ88万tの増加、その1昨年は、その前年に比べ86万tの増加となっている。今年は70万tが輸出増となつてくると思われるが、実際には、1～6月までの累計で19万tの増加に留まつている。品種別に見ると新聞・雑誌の輸出量が前年を割つてきている。輸出価格(今月の関東商組の輸出価格)は、問屋店頭価格で新聞14.11円と14.20円、雑誌11.61円、段ボール12.50円と12.40円。現在、古紙センターで行っている融通事業では現在の価格より新聞ではプラス2円、段ボール50銭の価格申請をしているが受け入れられていない。今後、国内のDIP増設等による需要増は年間で80～100万tと言われている。中国では板紙マシーン大幅増設に加えて、昨年から今年にかけて新聞用紙マシーンが増設されおり、これが新たに150～170万tの新規需要となつていようだ。今後、中国からのひきあいが更に強まってくるのではないかとされている。内外価格の格差の問題・スポット価格の問題等、古紙業界の仕入競争も当分、過熱して混乱した状況が続いていくと思われる。

家庭紙メーカー向けの原料の状況について

(株)富澤・小林委員(東京協組)

9月に価格の修正にご協力いただきまして我々組合員一同感謝しております。家庭紙メーカー向け古紙の発生は、

夏場以降、低迷のまま推移しており、9月の発生は期待をしておりましたが古紙全般に低調でした。家庭紙向け産業古紙並びにオフィス系古紙の発生も低調でした。

価格修正後、納入数量もご希望通りいかないケースもあつたのではないかと思います。この秋以降、来春にかけて洋紙メーカーの色上及び産業古紙の引張りが強くなると考えられます。又、オフィス系古紙も洋紙メーカーの動向次第では、どのような展開になるか不透明な部分が残っております。国内のDIP設備増強により古紙使用量の増量及び輸出も堅調に推移しており古紙全般に流動的な動きが心配されます。

組合の在庫状況は、平成18年7月5、333tで前年同月比64.2%、8月4、994tで前年同月比70.6%、9月5、1387tで前年同月比83.7%となっております。

産業古紙の発生は低調に推移したままで、10月もまだ回復している状況が見受けられません。

オフィス古紙について

(株)丸十・高橋委員(東京協組)

オフィス古紙の発生は、かなり出ているようである。現実問題として問屋に入ってくる量は、全体の6〜7割ぐらゐと思われる。残りの3〜4割は個人情報関係があり排出事業者又は業者の指定とまでは言わないが何処々のメーカーに持つて行くよう振り分けられているのが現状である。前に家庭紙メーカーに持つていった荷物が今では大手板紙メーカーに使われるようになった。洋紙メーカーも直接溶解、もしくは指定の古紙を使っているのが現状である。家庭紙メーカーに持つて行きたくとも発生元から指示をされると、振り分けなければ持つていけないのが現状である。オフィス古紙の輸出は好調で、価格は13円台が中心である。

中国に行った際の古紙状況について

シーズイシハラ(株)・石原理事(静岡商組)

先週、中国(行った理由は、日本では使えないような古紙(両面ビニール・磁気・アルミ)が貼つてある物等)の需要があり、本当に使えるのかどうか、どういう処理をしているのかを確認するために رفتてきた。日本では考えられないゴミを分別、分類し、家庭紙向け・板紙向けに分けていた。100%ビニールはビニールで分別し、廃プラ工場、トイレットペーパーメーカー、板紙メーカーと、一つの原料屋が分別、分類、製紙、販売等を全部やっている。このメーカーは、10年前は数十人位でやつていたが、現在は3,000

0人いて選別する人だけでも2,500人もいるという。現状は、作れば売れる状態でトイレットペーパーは、出来上がり次第、出荷となつてしまふ。原料は、日本のミックスペーパー、オフィス古紙、それから香港から入ってくる物で、J.Rのゴミ入れにあるようなタバコの箱、ペットボトル等の様々な物を手作業で分別、分類し、白系はトイレットペーパー、ザラ系は板紙という分け方をしている。これからは、本格的にトイレットペーパーに挑戦していきたいと言っている。今、一部のメーカーでトイレットペーパーをパルプで作つて売っているが、とても供給できない状況である。これからは古紙を使つて作つていっても10倍作つても10倍売れるという予想をしている。見学したメーカーは、そのゴミを使つてトイレットペーパーを1日150t作り、即、出荷している。在庫はゼロの状態である。このままいくと、日本の古紙が全部取られてしまうのではないかと、日本の古紙が全部取られてしまうのではないかと、すごい勢いで伸びている状況であった。今後、日本では使えない古紙を使つていく技術も持つているので、これからは徐々に中国の古紙の需要が増えていくのは当然であろうと考えさせられた。そんな内容を見て日本の家庭紙メーカーさんでも、今まで日本では使えなかった物も、これからは研究をして使つていけるようにしたら助かると思つて帰つてきた。

家庭紙製品市況

東海製紙工業(株) 村中代表取締役

〔静岡県紙業協会家庭紙部会〕

石油関連商品が高騰し古紙の価格も騰がつている。昨年(の)11月に原料が上がつた。そんな中で本当は製品の価格も上がればいいのだが、色々な要因があつて製品の価格は、逆に下がる。古紙が上がり製品の価格が下がつたため非常に不況に陥つた。ただ5月の末から6月の始めにかけて大手メーカーのパルプ物がどんどん上がつていき、石油関連商品も上がつていった。その後、ミニパニック状態になり商品がどんどん出て、7月8月に在庫がなくなる状態になつた。その時に当初の目標の修正ができれば良かったのだが、流通側の壁を破ることがどうしても出来なかつた。先程、話したミニパニックになり在庫が一掃された状態はいいのだが、いまだに在庫が増えているのが実情である。

夏は家庭紙の稼働率は高かつたが、これが続くとは思えない。多分、落ちて行くと思う。毎年、年末に需要があつて年末用に在庫をかかえて対応するわけだが、今年(は)はたして年末需要があるのかないのか。ひよつとすると、年末に家庭紙の在庫が増えていって、稼働率が下がるのではないかと予想していかなくてはいけないのかと思つている。

今後、原料の輸出が増えたり、洋紙メーカーのDIP増設により需要が増えて家庭紙メーカーに廻ってくる原料がタイトになつたりすることがあるので、是非、零細企業の多い家庭紙メーカーに原料が廻るようお願いをしたい。

## 質疑応答

(M・Q) 国内大手DIP設備増設の状況と原料はどういう物を主体に使用していくのか。

(M・A) 製紙メーカーは、板紙は別として洋紙関係で色々な物がきている。来年、夏過ぎにはD製紙で30万tクラスのDIPを増設。これが順調にいくと8割くらいDIPの生産が増える。N製紙が35万tクラスのDIPの増設。その内の25万tから30万tをスクラップして12万tくらいの生産が増える予定。再来年にはO製紙がDIP増設。しかし、これが計画どおりDIPを使うかは、原料の問題と需要の問題があり、必ずしも増設することにより生産が増えるわけではない。原料は不足するが、紙の需要があるわけではない。洋紙はこれから来年、再来年にかけて家庭紙と同じように動く可能性がある。

(M・Q) 中国の古紙の輸入の動きについて

(G・A) 関東商組で中国に行っているが、参加した者はここにはいない。現在は中国の新聞洋紙向けの古紙の買いは出していないが、将来の見通しとしては出てくるのではないか。中国の国内の回収率があまり増えていない。買値が上がって、11月は新聞が15円台、雑誌がもうすぐ13円台となり過去最高に上がってきている。特にオフィス関係は、パルプが高いためその分、古紙に振り替えている。当分の間、今の状況が続くのではないか。段ボールに関しては、中国にい

つている量は昨年に比べて減っている。その分、タイ・ベトナムに行っている。オフィスパックに関して、輸出先は中国を中心にベトナム、タイ、台湾、フィリピン、その他。ミックスペーパーは、ほとんどが中国で、全体の80%ぐらいの数量を輸出し、その内の80%が中国である。

(M・Q) シュレッダー関係は輸出が多いのか。

(G・A) シュレッダー関係は輸出が多い。何が入っているか分からないのでトラブルの原因になる。オフィスミックスという形で輸出するか焼却するしかなくなってしまう。

(M・Q) もう一段の価格修正があるのか。あるとしたらいつになるのか。

(G・A) 新聞価格は今、オフィシャル価格で11円だが11円で納入できない状況になりつつある。この要因は、輸出が高いためである。どうしても必要な中小のメーカーは買わざるをえないため、価格は二重、三重になってくる。家庭紙原料についても、もう一段、値上げをしなければならぬ局面もある。現状の古紙の発生を考えるともうひと波乱あるのではないかと思われる。

(G・Q) 上質なミリカッターを使える静岡のメーカーさんは、どれぐらいあるのか。

(M・A) 色々な物と混ぜて使えば使える。但し、シュレッダー品を込みに混ぜるのは困る。シュレッダー品はシュレッダー品、込目は込目として扱って価格差を分けている。

(M) 込目を使っているメーカーは、出先によって

品質が非常に違う。原因は、シュレッダー品が多くなった事と、集荷の事情が駐車違反問題で厳しくなり、中小のビルでは細かい分別ができないまま集めざるをえない状況になってきている。これからの込目の品質は出先によって悪くなっていくと思われる。その場合、どうしたらいいかと言うと、輸出に廻していくというのが現状でこれからも続いて行くと思われる。

(M・Q) 中国でトイレットペーパーを古紙で作った場合いくらぐらいになるか。

(G・A) 価格は聞いていない。但し、思った以上に白かった。100%古紙で作られており日本と変わらない白色度であった。しかし1センチぐらいの穴が開いているものがほとんどであった。

\*次回開催 平成19年2月26日(月)PM2時より

**集荷部会**

(平成18年10月28日(土))

出席者9名(於)組合会議室PM6時

**坂田集荷部長の挨拶**

宮崎副部長の進行で始まる  
議題に沿い各委員より発言あり厳しい現状が浮き彫りとなる。

9月下旬の家庭紙・古紙の価格修正は、各社とも営業に寄与する発言があった。古紙の相場以上で高値買いをする数社の影響で、相当にダ

メージを受けている模様。

石橋副部長より現在の価格帯を維持して行く事が望ましいとの発言もある。

今後、古紙の使用、利用方法が変わる事も充分考慮していく必要がある。家庭紙メーカーでしか利用出来なかつた古紙、見当、色上、その他が洋紙、板紙メーカーで使用可能になるということがある。

又、古紙輸出も順調で今後も古紙相場を牽引するとの見方で一致を見る。今後、集荷サイドで各問屋への売値を調整する事も視野に入れたい発言がある。

各社共、廃棄物、焼却、清掃工場持込みに就いては、相当に苦勞している事実が鮮明になる。普通一般の古紙よりもゴミに限りなく近い物の方が利潤があるとの事。今後、ワンプひとつに就いても各社共、バラバラで処分している事が判明したので今後、研究する。例えば、焼却場へ持つていく者、段ボールと抱き合わせで処分している者、処分料を問屋サイドへ支払っている者、口で置いていく者等、まちまちなので今後、現状を把握、他の難処理品に就いても集荷サイドで勉強する。

又、いい知恵を出し合つて行く事で一致、その他、継続者問題、組合の会議に出席する困難さが各社共にある事が今回の会議で明らかになつた。

### 共販委員会

〔平成18年10月31日(火)〕

出席委員12名(於)組合会議室PM4時

### 皆川理事長の挨拶

本日は、共販委員会でお世話になつているM商店がみえてるので、皆さんの忌憚のないご意見をよろしく願ひします。

### \*国内外の状況

輸出はセントに関して、中国のAPPに向けて輸出している。価格は145ドルから動いていないが火災以降、APP自体の動きが悪くなつてきていて契約がとりにくい状況となつている。

ただ、継続して輸出の契約をとつているので何とか価格を上向きにたく工作をしている。為替が若干、円高になつてきてるので以前に比べ円安にふれた分だけいくらか修正できるのではないかと思つ。

中国以外では、インドネシア・ベトナム・韓国に動きをかけている。韓国は品質面で非常に厳しく慎重にすすめている。年内には方向性を出して、場合によっては中国からシフトしていきたいと考えている。その場合、可能性として価格もそれなりに対応できるのではないかと思つ。

\*輸出価格について

9月中旬に富士地区が修正となつたが従来通りで行つた。

10月からM商店でどう対応してくれるのか。

討議の結果、M商店の修正と組合助成金と各会社負担で、10月から12月まで対応する事とした。

その後も四半期ごとに見直しをする。来年1月からの分の価格に関しては12月に共販委員会を開き再検討したい。今後、状況によっては国内メーカーへ振り向ける事を視野に入れ検討していく事を確認した。

### \*海外研修(中国)について

参加者対象の説明会を11月8日(水)午後5時より行う。

広報部副部長 脇克 美

私が広報の原稿を書く時は、締切の10日程前に書き上げるようにしています。もう覚えている方はいないと思いますが、前号の編集後記を書いたのは8月の中頃で、まだ暑い盛りの時でした。「残暑が続く」と書いたのに皆さんの手許に広報が届いた時には長雨が続き、残暑なんてものは無く、既に秋めいていました。何かチグハグな文章になってしまい今後は、時候の事にふれないでおこうと決めました。まあ、天気の予測の誤りは、気象予報士ではないのだからと自分をごまかすことが出来ますが、ことが商売の事となるとその読みの誤りはごまかしようもなく、時として会社の存続にもかかわる事態になるやもしれません。が、その場合、その読みが甘いと云うか、ボーっとその日その日を過ごしているようで、はなはだ危なっかしいと思っています。しかしながら簡単に会社を潰すことは勿論出来ません。その一助となっているのが私の場合、支部会や役員会、又はその後の飲み会で皆さんのお話を伺うことです。やはり同業の方のお話は何かとヒントとなる事も多く、助けられています。私も人の役に立てるよう努力してゆきますので今後ともよろしくお願いいたします。

次は、広報からのお願いです。此処の所、正直に言つて原稿が不足気味です。題材は、問いませんで組合員の皆様のご意見をお寄せ頂きたいと願つております。お忙しい中、文章を書くのを億劫に感じる方もおられるかとも思いますが、日々のちよつとした事でも書いて頂ければ幸いです。